

中津駅の再開発を求める決議

J R九州日豊本線の大分県内における2024年の1日平均乗車人員は、大分駅が1万7,780人、別府駅が5,961人、中津駅が2,607人となっており、中津駅は県内第3位の利用者数を有する主要駅である。

一方、駅の改修状況を見ると、高架化が実現したのは別府駅が1966年、次いで中津駅が1977年、大分駅が2012年である。

最も新しく高架化された大分駅には商業施設やホテルが併設されるとともに、駅周辺の再開発が進められたことで、大分市及び大分県の玄関口として重要な役割を果たしている。

また、別府駅においてもリニューアル事業が進められ、2026年5月に全エリアが開業されるなど、駅を中心としたまちのシンボルとして、新たなにぎわいの創出が期待されている。

一方、中津駅は約50年前に県内で2番目の高架駅として整備され、当時は百貨店等の商業施設が併設されるなど、市の玄関口として大きな役割を担ってきた。しかしながら、社会経済情勢や商業環境の変化に伴い、駅周辺の商業機能は縮小し、駅施設の利活用についても新たな方向性が求められている。

さらに、本年5月には駅構内の土産品販売所が閉店し、現在空きスペースとなっていることから、駅利用者の利便性向上や交流機能の充実を図るための取組が必要となっている。

よって、中津駅を本市のまちのシンボルとして再生し、にぎわいの創出と地域活性化につなげるため、下記の事項について強く求めるものである。

記

1. 中津市は、中津駅の施設管理者であるJ R九州グループ及び中津商工会議所をはじめとする関係機関と連携し、中津駅の再整備及び利活用を検討する協議会を設置すること。
2. 前項の協議を通じて、駅構内の空きスペースの活用、商業機能の充実及び交流拠点機能の強化など、中津駅の魅力向上に向けた具体的な方策を早期に検討し、その実現に取り組むこと。

以上、決議する。

令和 8年 6月30日

大分県中津市議会